

7 【 福島県立福島高等学校 】

福島県立福島高等学校 同窓会（みやぎ梅苑会）

福島県立福島高等学校

校歌

土井 晩翠作詞
中田 章作曲

一、徽章は薫のいみじき梅花
氷霜凌げる緑は清し
健児は一千こそりて励む
福島高校栄えよ永く

二、庭には湛ふる心字の池水
穿ちし由来は尊し優し
六千余尺の姿をそこに
映すや吾妻の山また嬉し

三、大地に根を据え虚空に入りて
高山示せり理想の跡を
我赤日に日にわが歩を進め
あせらず弛まず遠きに行かん

四、自然の眺め妙なる窓に
朝夕無言の教へにひたり
智徳を磨きて寸時を惜み
紅顔あしたの誇りを思ふ

五、あゝ我青春望みにあふれ
教の庭より養うけて
花咲きみのりて世の為立たむ
福島高校栄えよ永く

本校は、1898年（明治31年）に福島県第三尋常中学校として福島県福島市に開校し、その後、福島県第三中学校、福島県立福島中学校と改称され、昭和23年の学制改革に伴い「福島県立福島高等学校」と改称開設され現在に至っております。

この校歌は、母校創立25周年記念事業の一環として作成され、母校の二宮敬三先生が土井晩翠先生に委嘱しました。土井先生は自ら作詞し、作曲を中田章先生に依頼し、1923年に完成しました。作曲の中田先生は、「めだかの学校」「小さい秋みつけた」「夏の思い出」などを作曲した中田喜直先生の父親で、「早春賦」を作曲したことで知られています。

その校歌の詩には、母校の佇まいや、徽章の梅に込められた「清らかであれ」「勉励せよ」「世のためたれ」の精神が見事に詠まれており、学校はその後、旧制中学校から新制高校に変わり、生徒数も増え、2003年からは男女共学となりましたが、歌詞はそのまま歌い継がれています。

私達は、宮城県在住の同窓生の集まりで、母校の徽章が梅の花であることから「みやぎ梅苑会」と称し、1996年再建設立以来、年1回の総会・懇親会をはじめ、母校の支援などさまざまな活動を行っています。

今日は、母校を誇りとし歌詞の意味を噛みしめながら、一同心を込めて歌わせて頂きます。